

プラン策定の趣旨

- 当機構が実施している北陸新幹線(金沢・敦賀間)の建設工事では、開業時期の遅延等により、**関係者の期待に応えられない結果**となった。
- 当機構の事業内容が小規模プロジェクトを多数実施する形態から、**少数の超大型プロジェクト**を実施する形態へと変化しているほか、働き方改革やデジタル化の進展など、**機構を取り巻く状況が大きく変化**している。
- こうした状況を真摯に受け止め、**仕事のあり方を根本から見直す**必要がある。

プラン策定の問題意識

- 地域密着型の組織としての認識を改めて持ち、今後も交通ネットワーク整備を通じて**社会に貢献し、社会から一層信頼される存在**となることを目指す。
- 機構では、令和3年1月より業務改善の取組を進めており、この取組を一層加速させるため、4月に機構改革室を設置し、**機構自らが業務プロセスや組織・人事体制の見直し等を計画的かつ着実に進めるためのプラン**を策定。

目指す姿

交通ネットワーク整備を通じて、地域と共に歩み、社会に貢献し続ける組織

改革の視点

改革プランの実現に向けて、3つの視点から具体的な取組を推進する。

① 変化への迅速かつ柔軟な対応

② 総合力・専門性の強化

③ アカウンタビリティ(説明責任)の向上

具体的な改革の取組項目

(1) 組織体制の見直し

- 企画戦略部(仮称)の創設
- プロジェクトマネジメント体制の構築 等

(2) 業務プロセスにおける生産性の向上

- 生産性を重視した業務プロセスの再構築
- 実効性のある業務改善の仕組みの導入 等

(3) 入札契約制度・施工環境の改善

- 新たな入札契約制度の導入
- 鉄道建設工事における働き方改革の推進 等

(4) 人事体制・人材育成の見直し

- 企画戦略部(仮称)と連携した戦略的な人事
- 組織全体でのスキル・ノウハウの継承・共通化 等

(5) 対外的な情報発信力の強化

- 情報の適確な発信体制の構築
- 対外的なコミュニケーションの強化 等

(6) 働きやすい職場環境の構築

- 多様で柔軟な働き方の実現
- 職員の働き方改革の推進 等

改革の確実な推進

- 具体的なロードマップの策定
- テーマごとに責任者を設け、取組を推進

改革への姿勢

- 厳しい要員事情や予算制約等の中でも自ら創意工夫し、**新しいことにチャレンジ**する意識や姿勢を持つ
- 同じ組織に属する「**機構人**」として**組織全体に対する意識**を持つ